

教学半也

令和7年3月5日

No.14

校内研究・授業改善に
携わる全読者対象

第3回研究主任研修会 令和7年1月14日（諏訪・上伊那地区）、20日（下伊那地区）

今年度の手ごたえを、来年度へ ～実践発表より～

「今年度の教育研究の成果と課題を明らかにすることを通して、来年度に向けての展望をもつ」ことをねらいに、今年度最後の研究主任研修会を、オンラインで開催しました。その中で、8名の先生方に、今年度取り組んできた「研究内容」と「研究推進の工夫」の2点を中心に、お話をいただきました。

諏訪・上伊那

諏訪市立中洲小学校 田村 恵介先生・畑 正芳先生

<発表の概要>

【研究内容】主体的な学び～いのちの教育～

子供が、仲間と共に粘り強く課題を解決し、やり遂げた満足感・充実感を味わいながら学ぶ「子供主体の楽しい授業」へ挑戦した。実践を重ねる中で、目指す子供の姿が、職員間で明確になりつつある。

【研究推進の工夫】研究を日常の授業にいかす

研究テーマ「いのちの教育」を先生方と共通理解することの難しさや、日々の授業と研究との乖離があった。共通の視点として「いのちの教育」を中心に据え、学年会等で研究の話題を位置付けたことで、先生方が、日常的・継続的に研究を行う機会を創出することができた。

本年度うまくいかなかった点②

【研究と日々の授業について】

- 自分の所属している部会以外の研究の様子や取り組みが分からない。
- すばらしい研究をしていても、その共有がなかなかできない。
- 実践が、やりっぱなしになってしまう。

他の部会はどうな
ことやっているの
かな？

研究は研究で、日々の授業は
日々の授業！何のために研究
授業をやっているのだろう？

それぞれの部会主任
がいるから、研究は
主任の先生に任せて
おけばいいかな？

（中洲小学校実践発表資料より）

諏訪・上伊那

箕輪町立箕輪東小学校 松本 和樹先生・清水良汰先生

<発表の概要>

【研究内容】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

今年度は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の観点から、児童自身が語り合いたいと思える授業に挑戦した。児童自身の考えや困り感から生まれる「語り合いたい」という思いを対話につなげ、解決に向かっていく授業実践を積み重ねた。

【研究推進の工夫】語り合う気風の醸成

研究主任として心掛けてきたのは、「わからないことはわからないと言う」とことと「先生方となるべく授業の話をする」こと。他の先生にSOSを出すと、必ず誰かが助けてくれ、アイデアが生まれる。次第に授業について、職員同士で語り合う雰囲気が職員室にできつつある。

全校研究テーマ

学校教育目標

正しく（素直で正直な心）
強く（たくましく・粘り強く）
美しく（挨拶 優しさ 思いやり）

重点目標

自分から
進んで学ぶ
進んで動く
進んで関わる

全校研究テーマ

子どもたちが自分から「語り合いたい」と思える授業づくり

（箕輪東小学校実践発表資料より）

<発表の概要>

【研究内容】対話する環境づくり

4人班で向かい合う座席を各教室の基本の形とした。「話す機会の増加」や「自分の考えの広がり・深まり」を感じた生徒が多く、約9割の生徒が座席について肯定的に捉えている。来年度、対話の型と問いの質についてさらに研究を重ねたい。

【研究推進の工夫】職員間の共通意識の醸成

教育事務所のゾーン訪問を生かし、「いい学校ってどんな学校か」「対話とはどうなっているのがよいのか」をテーマにグループで語り合う場を設定した。目指す学校や授業、生徒像のイメージを先生方と共有することができた。

令和6年度 岡谷北部中学校 研究テーマ
対話でつながる～友と未来と地域と～

2) 今年度の取り組みとその様子

対話する環境を整える
4人の班を基本とする



職員の意識を揃える
ゾーン訪問を生かす



(岡谷北部中学校実践発表資料より)

下伊那

下條村立下條小学校 竹村 和哉先生

<発表の概要>

【研究内容】主体的な学び

学習問題に対する児童の気づきや経験から生まれる「こうすればできそう」等のつぶやきやアイデアを「かぎ」、「かぎ」をもとに教師が学習問題解決の視点として示したものを学習課題と定義して、全職員で共有した。児童の言葉を大切にすることで必要感のある学習課題が設定できることが多くなった。

【研究推進の工夫】日常の授業にいきる環境設定

どの授業の中でも「かぎ」や「学習課題」を位置付けることで、児童が、授業の見通しをもてるようになり、主体的に授業に向かうことができています。

Ⅲ 教育課程研究協議会から得られた成果

【成果1】

子どもたちの言葉から据えていく学習問題・かぎ・学習課題

【本時の視点（学習課題）】
じゃあ、今日の授業は「①体の向き」や「②ボールの打ち方」に気をつけてアタックを打ってみようね。

【アイデア（かぎ）】
ねらった方向へ打つために①体の向きを打ちたい方向に向けたよ。
②真ん中を打つように意識して、①で打ったきたよ。

公開授業導入の様子から

？学習問題（もんだい）？

「これができなかった」「これが難しかった」（前時の困り）
「こういう風にしたい」「こうなりたい」（本時の願い）
⇒子どもたちのふりかえりから担任が把握する

かぎ

「こうすればできそう」（学習問題を解決するためのアイデア）
⇒子どもたちの経験・つぶやきなど

学習課題（やること）

「こうやって解決していこう」（学習問題を解決する視点）
⇒担任がかぎからまとめる

(下條小学校実践発表資料より)

下伊那

飯田市立鼎中学校 久保田 真斗先生・竹原 博紀先生

<発表の概要>

【研究内容】ICT活用（対話的な学び、個別最適な学び）

多くの級友に自分の作品を見てもらい、意見をもらうという、生徒同士のつながりの構築を重視してICTを活用した。作品を選択すれば詳しい情報を知ることができるようにしたことで、タブレットでの意見入力後、級友と作品について直接関わる姿が生まれ、ICT活用が対話的な学びや個別最適な学びに向かうきっかけとなった。

【研究推進の工夫】つながりの構築

研究主任として、実践から得られた成果や、研修会等で得た知見について、先生方と共有することを通して、先生同士のつながりが構築されてきた。



(鼎中学校実践発表資料より)



参加者
感想

他の学校の実践をお聞きし、「研究内容」と「研究推進の工夫」それぞれにねらいや実践の特色があり、大変勉強になりました。今年1年を振り返ると、自分の力の無さでなかなか思うように進まない部分もありました。誰もが多様な仕事を抱えている中で、研究主任の役割として1つ外せないことがあるとしたらそれは何かという点について、色んな先生方の考えを聞きたいし、自分でも改めて考えてみたいと思いました。

【特集】探究する授業③ — 国語科 —

考えてみよう「探究する授業」～小学校4年生「ごんぎつね」を教材とした単元から～

本号では、子供一人一人が自分の「願い」の実現に向けて追求する中で、国語科の資質・能力の確かな育成を目指した、売木村立売木小中学校 田内優貴子先生の授業実践から、国語科における「探究する授業」のポイントについて考えてみましょう。



言語活動（問題解決的な活動）を発展的に連続させていく

田内先生が今回の単元で構想した「『お話ししようかいボックス』（図1）づくり」は、4年生「白いぼうし」「一つの花」を教材とした単元での「『リーフレット』づくり」が発展した活動です。「白いぼうし」では、リーフレットのパーツとして「①お気に入りの場面とその理由」と「大切な言葉」を提示しました。「一つの花」では、そこに「②気持ちグラフ」と「③登場人物とあらすじ」を加え、今回の単元では「大切な言葉」を発展させた「⑥言葉クイズ」など、3つのパーツを増やしています。子供の学びを的確に捉え、資質・能力の育成に向かうかどうかを吟味した上で、言語活動を発展的に連続させていくことは、子供自身が学ぶ探究する授業につながっていきます。

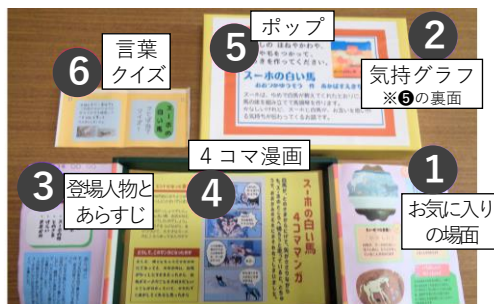


図1 「お話ししようかいボックス」

※本単元では②を共通課題とし、それ以外のパーツから2つ以上を子供が選択して作成した。



単元の向かう先（言語活動と単元の目標）を子供と共有する

右にある「言語活動」とは、子供にとって単元のゴールになるような活動です。子供の問いや願いとなる魅力的な「言語活動」を単元の導入で子供と共有することは、子供自身が単元の見通しをもち、自ら学ぶ姿につながります。田内先生は「『お話ししようかいボックス』（図1）を作って心に残った場面を紹介する」という言語活動を構想し、言語活動を通して具現したい「単元の目標」も、単元の導入で子供と共有していました（図2）。

《国語科の目標》

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（「小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）」より）

言語活動

「ごんぎつね」を読んで心にのこった場面をしょうかいしよう
～言葉から登場人物の気持ちのへんかをぐたいてきにそうそうし、自分の考えをもとう～

<目標> 資質・能力

- ☆「行動」「会話」「情景（じょうけい）」などの言葉から、登場人物の気持ちのへんかをぐたいてきにそうそうすることができる
- ☆気持ちのへんかについて考えたことを、友達のとくらべて、自分の考えをよりはっきりとつづることができる

図2 単元の導入で子供と共有された言語活動と単元の目標

Aさんは、「⑥言葉クイズ」づくりに取り組んでいました。自分のお気に入りの場面である第6場面からクイズを作成したものの（図3）、そのヒントを作る段になって、手が止まります。教科書の第4場面や第5場面を何度も読み返し、すでに自身で作成していた「②気持ちグラフ」の「兵十は、ごんへの復讐や恨みを常に考えているわけではなく、日常を生活している」という内容に着目していました。その後、ヒントを書いては消しを繰り返し、時間をかけてヒント（図4）を書き上げました。

Aさんは、「登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する」という単元の目標に向かって試行錯誤していたのではないのでしょうか。複数の場面に着目しながら、兵十の気持ちの変化を想像し、クイズに取り組む級友にもそのことを考えてほしいと思ってヒントを書いたのでしょう。

このように、単元の導入で、言語活動だけではなく単元の目標の共有があったからこそ、Aさんは、国語の資質・能力を身に付けていくことができました。

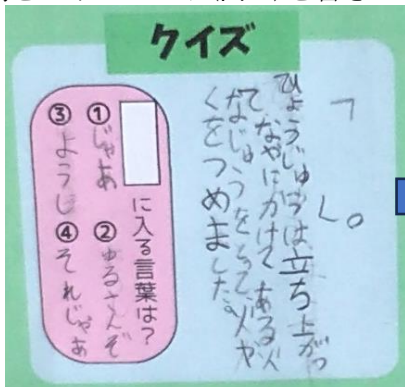


図3 第6場面から作成したクイズ

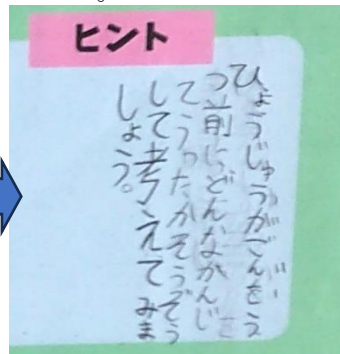


図4 第4・5場面への着目を促すヒント

田内先生は、「お話しうかいボックス」の見本(図5)や、それぞれのパーツづくりのためのヒントコーナー(図6)を、単元を通して教室に設けていました。このように、言語活動に向かう子供自身が学びをリードしていけるような学習環境の設定は、子供の探究を支える大きな支援です。



図5 「お話しうかいボックス」見本



図6 パーツづくりのためのヒントコーナー

「ポイント2」で紹介した場面(本時)の前の時間から、Aさんは「ヒントづくり」に悩んでいました。田内先生は、Aさんにとって手掛かりとなるであろう資料も、ヒントコーナーに準備していました。本時、田内先生が、クイズのヒントづくりに悩むAさんに声をかけず、少し離れたところからAさんの姿を見守りました(図7)。田内先生は、前時にヒントコーナーを利用していたAさんの姿や、本時、教科書や気持ちグラフを見返しながら、ヒント作成に向けて試行錯誤しているAさんの姿を、「場面の移り変わりに着目しながら、兵十の気持ちの変化について想像している」と捉え、学びをAさんに委ねたそうです。自分の課題の解決に向けて追究できるよう、子供が働かせている見方・考え方を的確に捉えたうえで、学びを子供に委ねることは、探究する授業に必要な教師の支援です。そして、課題の解決にたどり着いた子供の姿を捉え、認める声がけをする(図8)ことは、その子供が自分の学びを自覚することにつながります。



図7 Aさんを見守る田内先生

Aさんできた？
すごいじゃん!!
第4場面と第5場面の兵十の気持ちの変化がいいと思ってるんだね。それがよくわかるクイズとヒントになったね。



図8 ヒントを完成させたAさんに声をかける田内先生

単元末のAさんの振り返りから



Aさん

<単元末のAさんの振り返り>

- ・単元の目標(図2)に対する自己評価はどちらの☆についても「5」(最高評価)
- ・「計画を立てて自分のペースで進められ、自分で学ぶ力がついた。」

Aさんは、単元の目標に対する自己評価に、年間を通して初めて「5」をつけました。「探究する授業」の中で、国語の資質・能力を育成し、その高まりを自覚していると捉えられます。教科の資質・能力の育成と、子供自身の高まりの自覚のために「探究する授業」があります。そこを見誤らずに、評価や振り返りの場面を適切に位置付けていきましょう。

授業後、Aさんは「図書館にごんぎつねの本があった！セリフの書き方が違うと、感じ方も変わるね！」と田内先生に話しかけてきたそうです。学びが、ワクワクを伴ってAさんの中で続いているということが伝わってきます。また「まだ挑戦は始まったばかり。今回の実践を、次の単元構想にいかしたいです。私も、試行錯誤です」と笑顔で語っていた田内先生の姿も印象的です。売木小中学校の子供の中でも先生の中でも、「探究」が連続しているのだと思いました。



諏訪、上伊那、下伊那のそれぞれの地区で、本年度最後となる初任者研修が行われました。自己課題に対するこれまでの取組や来年度以降の見通しについて、グループ協議や講話を通して考え合いました。

1年次プログレス研修 ～ 自己課題を更新するA先生 ～

1年目の先生方は、授業や学級づくりの難しさを感じながら試行錯誤を繰り返してきました。子供と学び合う教員の良さを感じ始めた先生方が、2年目へ向けた課題について仲間と考え合いました。



「子供の言葉でつくる授業」を自己課題とし、子供の発言やつぶやきを軸にして展開する授業になるように心がけました。子供の発言やつぶやきに問い返しをすることで、子供主体の授業に近づけたと思います。今後、子供同士の対話が活発に生まれるような授業にしていきたいです。先生方は、どのように工夫されていますか？



子供が「友達と話したいな」という願いが生まれるような授業展開を考えるようにしています。なかなか難しいので試行錯誤を繰り返しています。



教員と子供の対話だけでなく、子供同士の対話が活発に生まれる授業にするためのアイデアを教えてくださいました。明日から実践してみたいです。2年次は、さらに授業力をレベルアップできるように、子供の願いが生まれる授業展開を考えて、子供同士の対話を生かした授業を目指していきたいです。

発表者の先生が「さらに伸ばしたい」と思っていることについて、同じグループの先生方が真剣に協議していました。仲間と共に考え合う良さを感じながら、自己課題を更新していく先生方の姿がありました。

2年次プログレス研修 ～ 教員という職業に誇りをもつB先生 ～

2年目の先生方は、より実践的な指導力を付けたいと願い、授業づくりや研修に励んできました。グループ協議や講話から、教員としての在り方や自らをさらに高めていく姿勢について考えました。

【南信教育事務所 林 健司課長の講話の一部】

教員という職業は、管理職からの職務命令で業務をすることは少なく、教員自身の自発性、創造性に委ねられる部分が多くあります。子供たちの人格の形成と未来を切り拓く人材を育成する教員は、子供たちの未来をつくる特別な職業です。多くの人と出会い、様々な経験をして学び続け、教員生活、人生を楽しんでほしいと思います。



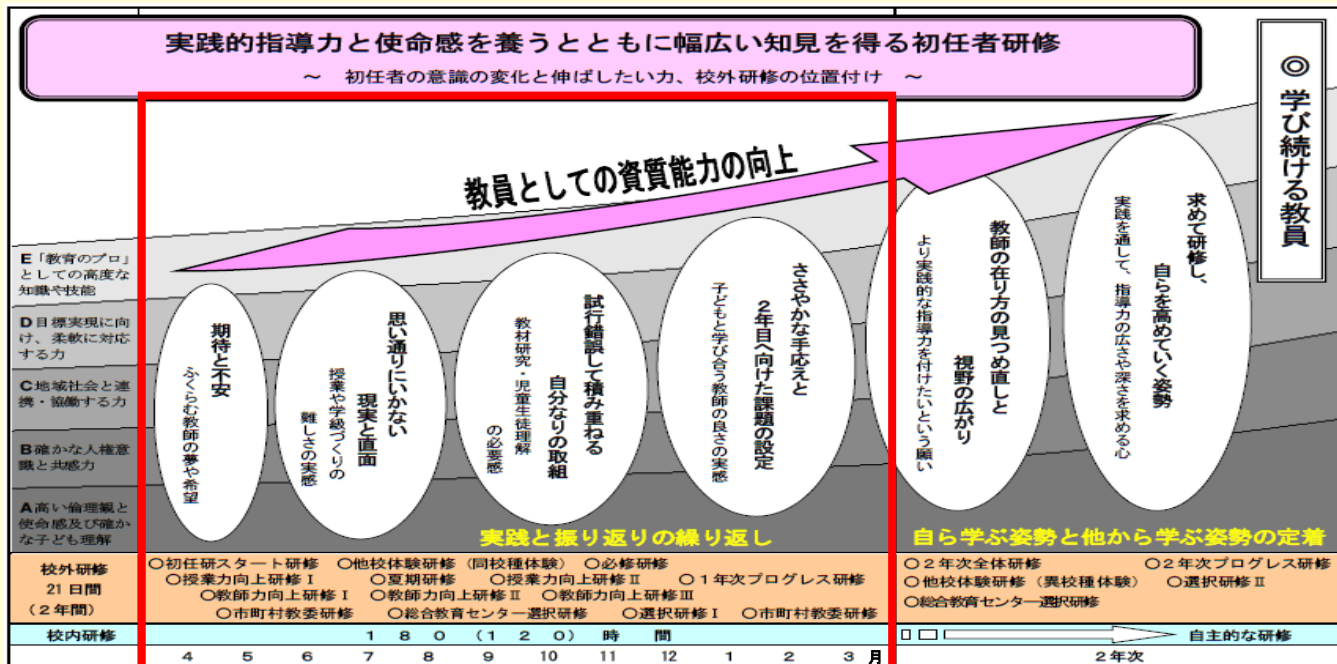
子供の困り感に寄り添い、子供に合った支援を目指して過ごした2年目でした。日々、悩みは尽きませんが、「子供の未来をつくる職業」として、これからも努力し、学んだことを子供たちにかえしていきたいと思います。

先生方は、教員という職業に対する誇りや、やりがいを再認識し、自らを高めていくために学び続ける姿勢を大切にしているようでした。

初任者の先生方は、日々、悩みながらも、児童生徒と向き合い、校内外の多くの先生方と対話をしたり、先輩の先生方の姿から学んだりしながら、自己課題の解決に向けて取り組んでいます。次ページからは、本研修に至るまでの1年間の歩みについて、1人の初任者の先生の様子をご紹介します。



下の図は、校外研修を通して伸ばしたい初任者の先生方の資質能力を表しています。初任者の先生方は、自己課題の解決に向けて実践と振り返りを繰り返しながら取り組むことを通して、教員としての資質能力を向上させていきます。本稿では、飯田市立飯田東中学校 手塚悠里先生（外国語科）の授業づくりに関わる実践の一部をご紹介します。



「令和6年度小学校・中学校初任者研修の手引き」より

- 4月 **初任研スタート研修** 目指す授業や教員像について考える
- 5月 **授業力向上研修Ⅰ** 先輩の先生の授業から子供の声を大切にする授業について学ぶ
- 6月 **教師力向上研修Ⅰ** 仲間との意見交換を通して自己課題を設定する

手塚先生は、4月からの研修や実践を通して、この時点での授業に関わる自己課題を以下のように設定しました。

【手塚先生の自己課題】

ねらいや活動内容を明確にして、1時間の授業の中で、生徒が「わかった」「できた」を感じられる授業にする。

教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ

5年経験者の先生方との意見交換を通して自己課題の解決に向けての見通しをもつ

期待と不安



5年経験者の先生方から、「コミュニケーションができるようになるためには、生徒が実際に英語を使いたいと思うような言語活動を取り入れることが大切」と教えていただいた。今まで意識していなかったから、次の授業から実践してみよう！



外国語科では、「実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける」ことが、知識及び技能に関わる目標として設定されています。そのために、手塚先生は、実際のコミュニケーションの場面を想定し、生徒が英語で伝えたいと思うような言語活動を行おうと考えました。

7月

校内公開授業① 研修を通して学んだことを実践し、改善の視点を得る

手塚先生は、授業後の研究会で次のように実践を振り返りました。



1年生は、中学校に入学して3か月が経ちました。生徒は「友達の新たな一面を知りたい」と思っているのではないかと考え、1日のスケジュールを尋ね合う言語活動を取り入れました。

授業では、活動のモデルを示したり、使用する表現を繰り返し練習したりしましたが、生徒たちは、何のために、何ができるようになればよいのか、よく理解していないようでした。

研究会では、授業改善の視点として以下の2点を確認しました。

視点①単元末にどのような資質・能力を身に付けていればよいのかを明確にし、
単元の目標や単元展開を構想する。

視点②単元の始まりで、その単元の目標を生徒と共有する。

思い通りにいかない現実

8月

夏期研修 外国語科における指導の基本を確認し、新たな視点を得る

手塚先生は、さらに夏期研修において、3点目となる授業改善の視点を見出しました。



資質・能力の育成のために、**視点③単元を通して言語活動を行う**ことが大切だと学んだ。言語活動の前に、簡単な英語で生徒とやり取りをして、その言語活動のねらいを達成するための問いや願いを生徒から引き出せるようにしたい！

1時間の中での言語活動について考えてきた手塚先生でしたが、資質・能力の育成のためには、1時間だけでなく、単元を通した言語活動を構想し、位置付けていくことの必要性について学ぶことができました。この研修の振り返りを2学期以降の授業構想に生かしていきます。

試行錯誤して積み重ねる

9月

授業力向上研修Ⅱ(校内公開授業②)

実践や研修を通して見えてきた課題を解決しようする

1学期の研修や実践の振り返りを基に、上記の**視点①、②、③**について授業改善をしていきたいと考えた手塚先生は、以下のように単元を構想し、実践しました。

【学習指導要領 話すこと[発表]イの目標】

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

**視点①【単元末に目指す資質・能力を明確にした単元の目標の設定】**

夏の楽しかった思い出が友達に伝わるように、事実と気持ちを整理してスピーチをしよう。

視点②単元の目標を共有**視点③【単元を通した言語活動】**

1時間目 ↓ これまでに学習した表現を思い出しながら、夏の思い出について話してみる。

3時間目 夏休みに誰とどこへ行ったか、ペアで話す。

5時間目 夏休みに楽しんだことについて、ペアで話す。

6時間目 夏の思い出について、出来事と感想をペアで話す。

7時間目 夏の楽しかった思い出が友達に伝わるように、ペアでスピーチをする。(本時)

8時間目 夏の楽しかった思い出が友達に伝わるように、全体に向けてスピーチをする。

試行錯誤して積み重ねる

【1時間目のAさんの発話と振り返り】

中日ドラゴンズ。行った。試合。Game. Watch baseball. 焼肉弁当。Box lunch. Ate.



まだ英語が全然使えていないけど、できるだけ英語を使えるようにがんばりたい。



【7時間目のAさんの発話と振り返り】

Hello! I went to Aichi, Nagoya city, with my family. I enjoyed watching baseball game. Chunichi Dragons game watching. Do you know Chunichi Dragons team? Do you like Chunichi Dragons team? I like Chunichi Dragons team. It's exciting. I ate ballpark lunch box. It's Yakiniiku Bento. Eat, eat. It's delicious. I watched good baseball player. My favorite players is three players, Muramatsu Kaito and Fukunaga Hiroki and Tanaka Mikiya. It's good. Very good. Thank you!



最初、スピーチしたときはボロボロだったけど、みんなとスピーチしていくうちに、教えてくれたりアドバイスをしてくれたりして、最後、みんなの前で発表したときは、すごくいい発表ができてよかった。



手塚先生は、授業後の研究会で次のように実践を振り返りました。



1時間目に、夏の思い出について生徒とやり取りをしてから、「この単元の終わりにこんなことができるようになるろう!」とUnit Goalを共有しました。

2時間目以降は、Unit Goalを達成するために、どんな活動に取り組めばよいか、毎時間、生徒と確認しながら授業を進めました。何のために、何ができるようになるればよいのか明確だったため、多くの生徒が「1時間目に比べて、コミュニケーションができるようになった」と実感していました。

10月

他校体験研修 先輩の先生の授業から安心して取り組める授業について学ぶ

教師力向上研修Ⅲ 特別な支援が必要な子供の理解や支援について学ぶ

1月

1年次プログレス研修 仲間との意見交換を通して自己課題を更新する

2年目へ



年度当初は、1時間の授業の中で生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業にしたいと考えていましたが、1時間の授業だけではなく、単元を通して資質・能力を育成していくことの大切さを学びました。研修を通して様々な方法を学んできたので、実践してみて、目の前の生徒たちに合った方法に調整していこうと思います。

来年度は、生徒とのやり取りを大切にして、生徒が失敗を恐れず言語活動に取り組むことができるような雰囲気づくりと、話した内容を書くことを通して英語使用の正確さを高めていけるような指導について考えていきたいです。

手塚先生は、生徒が自分の力でわかったり、できたりしたことを実感できる授業を目指して、研修を通して学んだことを実践に生かそうとしてきました。実践して満足するのではなく、研修で学んだことや生徒の姿から、授業の成果と課題を振り返って自己課題を更新し、それを解決するために試行錯誤を繰り返しています。

現時点での先生方それぞれの自己課題は何でしょうか。子供たちの資質・能力の育成を目指して、目の前にいる子供たちのために学び続ける教員でありたいと思います。